

広報芝浦

Summer 2026.08

INSTITUTE OF TECHNOLOGY

S
H
I
B
A
U
R
A

特集

創発棟 (Emergence Hub)

— 持続可能な未来を拓く新たな教育研究拠点 —



附属高野球部が
全国高校野球選手権東京大会
4回戦(ベスト32)進出!!
部員13人で11年ぶりの快進撃!!

主将インタビュー

秋大会ではメンバーが揃わず他の部活から助っ人を借りる状況で、一人ひとりがばらばらな方向を向いている時期もありましたが、めげずに練習を続けてきて最後の夏にチームが一つになってこの結果を出せたことがうれしいです。また、強豪ひしめく東京区ベスト32の中に「芝浦工大附」があることがとても感慨深いです。大学でも野球を続けてもっと成長して活躍できるように頑張ります!



3年生
小家 光さん



(表紙)
大宮キャンパス創発棟(9号館)

創立100周年記念事業(O-CAMP2027)の中核を担うプロジェクトとして、持続可能な未来を拓く新たな研究拠点として2026年4月に新設。詳細は4～7ページをご覧ください。

広報芝浦

Summer 2026.08

INDEX

04 [特集1]

創発棟(Emergence Hub)

—持続可能な未来を拓く新たな教育研究拠点—

08 [特集2]

一人ひとりに寄り添う支援が、 確かな進路実績へ

10 [特集3]

読者ギャラリー

私の芝浦ご飯 #シバ飯

12 創立100周年記念10回連載

周年事業を振り返る

～前編(8、50、60、70周年)～

14 SIT Academic Column

デジタル技術と建築再生の両輪で 建築の価値を未来へとつなぎ 実際の地域、人との関わりの中で 建築をより豊かにする

システム理工学部/建築デジタルデザイン研究室
水谷 晃啓 准教授

18 しばうら人 卒業生の「今」

学生と卒業生の交流イベント「Primo」で デザイン工学部の進路の選択肢を拡げたい

株式会社日立製作所 砂子 咲季さん

株式会社リクルート 平野 颯也さん

デザイン工学部 デザイン工学科 2025年3月卒業

20 ACTIVE STUDENTS! 活躍する芝浦工大の学生たち

理工学研究科 修士課程 建築学専攻 2年 福島 水柚さん

工学部 機械工学課程 基幹機械コース 3年 神永 颯太さん

22 SITニュース





2026 SUMMER

7月17日(金) 4回戦 神宮球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
淑徳	1	3	0	5	2					11
芝浦工大附	0	0	0	0	0					0

7月14日(火) 3回戦 大田スタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
芝浦工大附	0	0	0	3	2	0	0	4	0	9
鷺宮	0	1	2	0	3	0	1	1	0	8

7月8日(水) 2回戦 神宮球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
品川翔英	3	0	1	0	1	1	0			6
芝浦工大附	0	0	1	4	0	9	×			14

創発棟(Emergence Hub)

—持続可能な未来を拓く新たな教育研究拠点—

芝浦工業大学大宮キャンパス「創発棟 (Emergence Hub)」は、本学創立100周年記念事業 (O-CAMP2027: Omiya Campus Master Plan) の中核を担うプロジェクトです。特定成長分野「デジタル・グリーン・ウェルビーイング」を拡充し、分野横断型の理工系教育研究を推進します。SDGsや脱炭素、地域の健康増進に寄与する空間設計に加え、学生の主体的な学びを誘発する新ラーニングコモンズを整備しました。地域の方々にも広く活用され、親しまれる「まちに開かれたキャンパス」としての整備を一層推進してまいります。

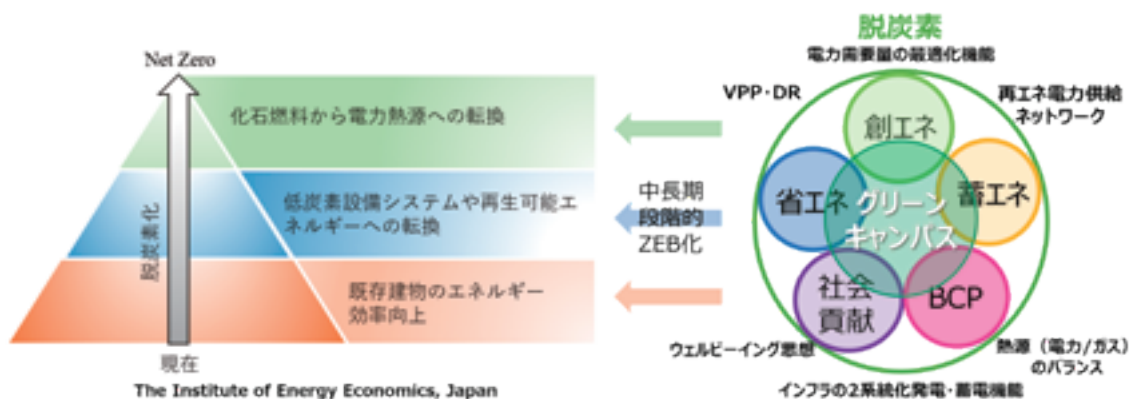
*創発 (Emergence): 「個々の要素の単純な総和を超え、全体として新しい価値や特性が生まれ出る」ことを意味します。多様な分野の学生や研究者が集い、交流し、協働することで、新たなアイデアやイノベーションが湧き上がる、そのような未来への期待が込められています。



脱炭素社会への貢献

大宮キャンパスは「グリーンキャンパス」(商標登録第4584482号)を掲げ、豊かな自然環境を生かした教育研究環境の創生を目指しています。さいたま市との連携を強化し、「さいたま発の公民学」によるグリーン共創モデル」の実現に向けて取り組んでいます。「デジタル・グリーン・ウェルビーイング」分野を拡充する拠点として構想した創発棟は、脱炭素社会へ向けた貢献を果たす実践的な取り組みを行っています。





2022～2026年目標（設計時）

ZEB Ready -50%

- ①外皮の高機能化
- ②再生・未利用エネルギー導入
- ③大規模建築の空調・換気

2026年以降（運用時）

ZEB Ready for Nearly ZEB

- ①自然換気システムの活用
- ②自然採光の活用
- ③電力消費の最適化

将来計画（創エネ設備の拡充）

Nearly ZEB -75% for ZEB

- ①創エネ設備の増設

ZEB Ready 認証（Nearly ZEB 認証予定）・BELS 認証・CASBEE Sランク認証

人と自然が対話する 穏やかな快適性

「創発」を生み出すには、緩やかな「セレンディピティ」（偶然の幸運な発見）の創出が不可欠です。創発棟における出会いの中心であり、キャンパス軸を受け止めるように配置されたラウンジは、「グリーンキャンパス」の象徴として、豊かな自然環境と最先端の建築技術を融合させた有機的な学修・交流の場です。

自然の通風や採光を生かしつつ、強い気流や温度ムラを抑える輻射冷暖房システムを導入することで、「陽だまりのような暖かさ」と「木陰の涼しさ」を実現しました。内部と外部をシームレスにつなぐ環境エンジニアリングが穏やかな室内環境を生み出し、長時間の深い集中と、リラックした状態での活発な対話を両立します。利用者の感性を刺激し、自由な発想を促す空間です。



多様な出会いを誘発する交流空間の創作家具。堀木エリ子氏の創作和紙の躍動的な人型を地上絵にし、その上に紙管を用いた軽やかな間仕切りとベンチを配置しました。坂先生に学びながら仲間と創った家具が未来につながると信じています。（山口星さん（学生代表・完成当時 大学院修士2年））

エントランス・創作家具 躍動の杜

- デザイン・組立…本学学生
- 監修…坂茂（本学特別招聘教授）



主体的学習を育むラーニング commons

分野横断型の学びと、学生の主体的な学修姿勢を育む新たなラーニング commons です。多様な学びを誘発するために、「思考する（着想）」「かたちにする（試作）」「対話する（議論）」「表現する（発表）」という4つのエリアで構成しています。「もの・ことづくり」の過程を空間化し、それぞれの個性的な環境の中で、自分に合った学修スタイルを実践できます。また、産学官連携コーナーを隣接させることで、「社会に学び社会に貢献する技術者」としての意欲を高めるきっかけを提供します。

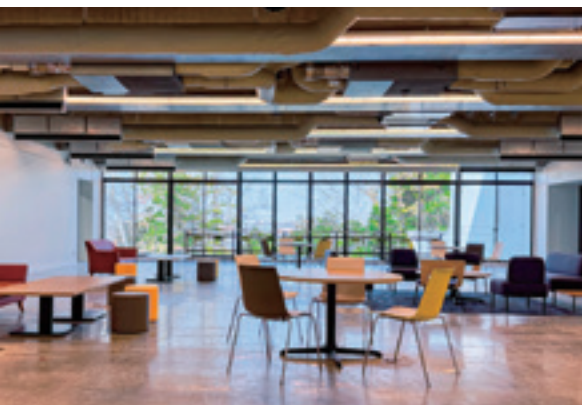
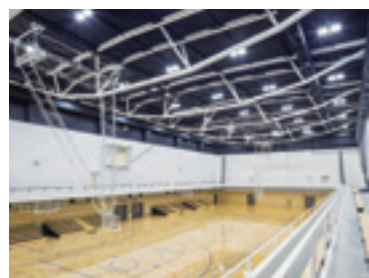


ラーニング commons・テキスタイル デュナミス

■ 安東陽子（テキスタイルデザイナー）

白いテキスタイルをキャンパスに見立て、キンラン、ギンランのつぼみや、重なり合った花びらをデザインモチーフに、そこで学ぶ学生の個性が芽生えるようなパターンをデザイン、形や色が空間を彩り、互いをつなぐような役割をもつテキスタイルを制作しました。

デュナミス（Dunamis）は、アリストテレス哲学における「可能態」。つぼみの内側に秘められた「これから花開く無限の可能性やエネルギー」が、静かに、しかし情熱的な力強さをもって芽吹こうとする瞬間を表しています。



澤田学部長コメント

芝浦工業大学は2027年の創立100周年に向け、大宮キャンパス再整備プロジェクト「O-CAMP 2027」を進めています。その象徴として誕生した「創発棟」は、次世代の理工系人材を育む「グリーンキャンパス」の中核拠点です。

本年度、システム理工学部はさらなる分野横断型の学びを推進するため、学科制から課程制へ移行しました。これにより、政府が掲げる特定成長分野「デジタル」「グリーン」「ウェルビーイング」の学びを深化・融合させることが可能になります。創発棟には、共同研究を促すガラス張りのオープンラボや、着想からプレゼンテーションまでのプロセスを体験できるラーニングコモンズ、産学官連携拠点「G・CHOICE」を整備しました。さらに、1階には地域住民も利用可能な「地域健康増進センター」を設け、最新機器を用いた研究と地域活性化を両立させます。

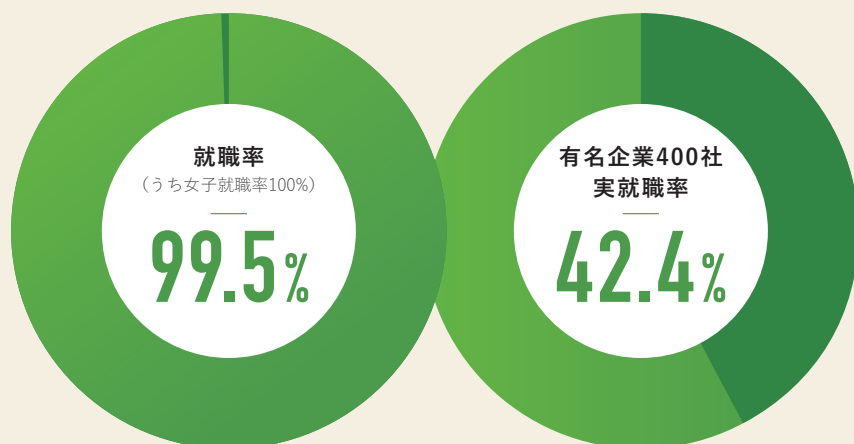
学生には、今の価値観だけで道を選ばず、あえて興味のない分野にも学び

を広げる「創造的な迷い道」を歩んでほしいと考えています。多様な知が交差し、予期せぬ出会い（セレンディピティ）が生まれるこの場所で、社会の変化に柔軟に対応し、未来を創造する力を養ってください。創発棟は、学生と地域、産業界が共に新たな価値を創出する、イノベーションの出発点なのです。

システム理工学部長／大宮キャンパス長
澤田 英行



一人ひとりに寄り添う支援が、 確かな進路実績へ



芝浦工業大学では、学生一人ひとりが納得できる進路を実現できるよう、就職協働によるきめ細かなキャリア支援を行っています。2025年度の就職率^{※1}は99・5%（前年度比+0・2ポイント）、有名企業400社^{※2}への就職率は42・4%（同+1・2ポイント）となり、いずれも過去最高を更新しました。

また、大学院進学率は50・0%（同+1・0ポイント）を記録しました。有名企業400社をはじめとする大手企業では大学院修了者の採用が多く、本学でも学部から大学院まで一貫したキャリア形成を支援しています。

さらに、女子学生の就職率は学部・大学院を合わせて2年連続で100%を達成しました。女子学生が理工系分野で自らの可能性を最大限に発揮できるよう、個別相談やキャリア支援を充実させるとともに、ロールモデルとなる女性技術者・研究者との交流機会を提供しています。進路選択から就職まで一貫した支援を行い、社会で活躍する女性人材の育成に取り組んでいます。

※1 就職希望者に対する就職確定者の割合（就職者数／卒業生数－進学
者数－就職意思なし）。

※2 有名企業400社…大学通信社が日経平均株価指数採用銘柄、企業
規模、知名度、大学生の人気企業ランキングなどを参考に選定した
400社。

■2025年度卒業・修了生就職先ランキング

学部卒業＋大学院修了

就職先	人数	うち 女子
日本電気株式会社	35人	5人
本田技研工業株式会社	27人	2人
東京都庁	24人	10人
三菱電機株式会社	20人	1人
東日本旅客鉄道株式会社	19人	3人
大成建設株式会社	16人	1人
清水建設株式会社	12人	2人
株式会社長谷工 コーポレーション	12人	3人
トヨタ自動車株式会社	11人	2人
東京エレクトロン株式会社	11人	1人
SCSK 株式会社	11人	2人

大学院修了

就職先	人数	うち 女子
日本電気株式会社	22人	3人
本田技研工業株式会社	16人	
三菱電機株式会社	10人	1人
トヨタ自動車株式会社	9人	1人
ソフトバンク株式会社	9人	2人
川崎重工業株式会社	8人	
東京エレクトロン 株式会社	8人	
大成建設株式会社	7人	
キオクシア株式会社	6人	
株式会社東芝	6人	2人
ルネサスエレクトロニクス 株式会社	6人	1人

学部卒業

就職先	人数	うち 女子
東京都庁	21人	8人
東日本旅客鉄道株式会社	14人	3人
日本電気株式会社	13人	2人
本田技研工業株式会社	11人	2人
三菱電機株式会社	10人	
大成建設株式会社	9人	1人
株式会社長谷工 コーポレーション	8人	2人
日本発条株式会社	8人	
NECソリューション イノベータ株式会社	8人	3人
株式会社アルファ システムズ	8人	

一人ひとりに寄り添うキャリア支援

キャリアサポート課では、学生一人ひとりに寄り添った個別面談を実施し、希望や適性に応じた進路選択を支援しています。こうしたきめ細かなサポートにより、就職・キャリア支援部が実施した満足度調査では、進路満足度90・7%、キャリア支援体制満足度90・9%を記録しました。学生から高い評価を得ている支援体制のもと、一人ひとりの主体的なキャリア形成と納得感のある進路実現を支えています。



企業との接点づくりを強化 400社を中心とした説明会・ 見学会を実施

就職活動の早期化に対応し、学内合同企業説明会や企業見学会を充実させた結果、説明会参加者数は昨年比185%となり、約6300人の学生が参加しました。説明会には有名企業400社掲載企業をはじめ、多くの企業にご参加いただきました。



公務員分野でも高い実績 東京都技術職合格者の約15%を輩出

2025年度の東京都職員採用（選考）技術職区分（建築・土木・機械・電気）では、本学から46人が合格し、全合格者300人の約15%を占めました。さらに、国家公務員（国土交通省・防衛省）、横浜市・さいたま市などの政令指定都市、JAXAや都市再生機構（UR都市機構）などの公的機関・法人にも多くの卒業生が就職しています。本学では、公務員や公的機関を志望する学生に対しても充実したキャリア支援を行い、高い就職実績につなげています。



／ 読者ギャラリー ／

私の芝浦ご飯

#シバ飯

芝浦工業大学の学生から届いた、写真とコメントでつくる読者参加型コーナー「読者ギャラリー」。

今回のテーマは #シバ飯。学食、購買、自炊、キャンパス周辺の“いつものご飯”が並びます。

おいしさだけじゃない、日常の気分や小さなこだわりも一緒に。芝浦工大の「今日の一品」をのぞいてみませんか。

財布に優しくお腹いっぱい!
夜の静かな学食



お昼の賑やかさとは一転して、夜の食堂は落ち着いた雰囲気です。安くてボリューム満点の温かいご飯が食べられるのは学食の魅力です。しっかり食べて長い帰り道に備えます!

● 大宮キャンパス/
生協食堂

今年から始まった
生協食堂の秤売りビュッフェ!



いろんなメニューを好きなだけ盛れて幸せ! ついつい盛りすぎでお腹いっぱいにな..!

● 豊洲キャンパス/
Sky カフェテリア

長い通学と
フルコマを乗り切る相棒!



私は片道2時間かけて通学しています。月曜日は1-5限までフルで授業があり睡魔との戦いですが、この生ラムネ玉を食べていつもやる気を出しています!

● 大宮キャンパス/
齋藤記念館

いつものシシリアでちょっと豪華なお昼!
(シーフードパスタとサラダ)



生協の食堂かシシリア、どちらにしようかいつも迷います。学生割引で安く食べられます!

● 豊洲キャンパス/
銀座シシリア豊洲店

昼休みは教室で



お昼休みの食堂はとても混んでいるので、私は朝に購買でお弁当やパンを購入し、教室で友達といっしょにゆっくりしながらお昼ご飯を食べるのが好きです。今日はバリバリ麺サラダをいただきます!

● 大宮キャンパス/
2号館教室



タコ焼き機で小籠包



誕生日パーティにはもってこいの一品

📍 芝浦工業大学国際寮（自炊）

男子ごはん@ morning



一人暮らしの朝はしっかり朝ごはんを食べて元気よく大学へ……なかなか起きられない朝は簡単に作れるピザトーストでおなかいっぱい、いただきます！

📍 自宅（自炊）

いつもの朝を 元気付ける朝食



いつもの朝を励ます生協の朝食セット。生地と調和したトマトソースと甘い紅茶が冷たい朝でも体に活力を与えてくれる。

📍 豊洲キャンパス／本部棟4階

本場タイ料理



何度でも食べたいくらいおいしいお店のカオマンガイとトムヤムクン

📍 『マリタイ』（さいたま市大宮区）

男子ごはん@ evening



帰ってきたらおなかがグーグー……今日はサツとたくさん食べられるスープご飯。デザートにたいやきをどうぞ🍡
疲れた夜も Let's 男子ごはん！

📍 自宅（自炊）

午後からの授業前に エネルギー補給



大学近くで学生にも人気のお蕎麦屋さん。1000円前後で満足感たっぷり、学生証提示で50円引きになるのうれしいポイントです。

📍 『あさま』（さいたま市見沼区）

この夏にピッタリ！ 頑張った日のご褒美アイス



購買が閉まった後でも「アイス食べたい！」と思った時に頼れるベーカリー前の自販機です。歩きながら食べて帰れば、カロリーは実質プラマイゼロ……かもしれません。

📍 大宮キャンパス／ベーカリー前のアイス自販機

金曜日の夕方に 自分へのご褒美



金曜日の1限の授業が終わり、バイトもこなした後に大学食堂でおろしカツ丼を。夕食メニューの中で一番好きで、一人暮らしの私にとっては至福のひとつときです！

📍 大宮キャンパス／生協食堂

クリスマス色に 染まった朝食



いつもの朝を生協の朝食セットがクリスマスに染めてくれる。いちごジャムが口の中ですくわれて、その甘さをほうじ茶が喉の奥へと流れ込み、口の中を幸せで満たされる。

📍 豊洲キャンパス／本部棟4階

周年事業を振り返る～前編(8、50、60、70周年)～

第6回、第7回は前後編の連続企画です。前編の今回は、8周年、50周年、60周年、70周年を振り返ります。

8周年（1933年）※1

■ 八周年記念祭 ※2

1933（昭和8）年11月3日、4日に創立8周年と新校舎の落成を祝って記念祭が盛大に挙行されました。有元史郎は『東京高工新聞』（1933年11月10日付）の中で「八年といえ、これを少年にたとえれば既に学齢期に入つて一人歩きのできる年である。本校また八歳の齢を重ねて、ここに八周年記念祭を行つた」、「八は我が国に於いては実に出度き数であり、本校また八周年記念祭を挙行政したのは固より、深く拠る所があったからである」と所見を述べています。

※1 学校の設立申請から数えて8年目。
※2 八周年記念祭については、創立80周年記念式典で創立者有元史郎の三女、有元美佐子・ヘンソンさんによる講演の中で紹介されました。



八周年記念祭プログラム



『東京高工新聞』（1933年11月10日付）



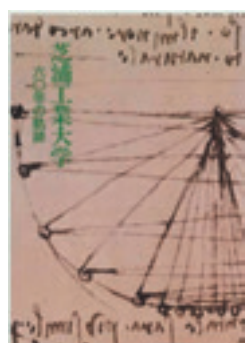
80周年記念式典で話すヘンソンさん

50周年（1977年）

1977（昭和52）年11月4日、創立50周年記念式典が挙行されました。また周年事業として卒業生名簿の発行と大宮キャンパスに記念植樹などを行ったと記録されています。その頃は創立者が誰なのかを知る者は少なく、本学の歴史を振り返る時代ではなかったとされています。学内に校史編纂の動きはありましたが、学園闘争の混乱が尾を引き、創立50周年誌は完成せず年表『50年のあゆみ』にとどまり、70周年まで年表は発行されていません。

60周年（1987年）

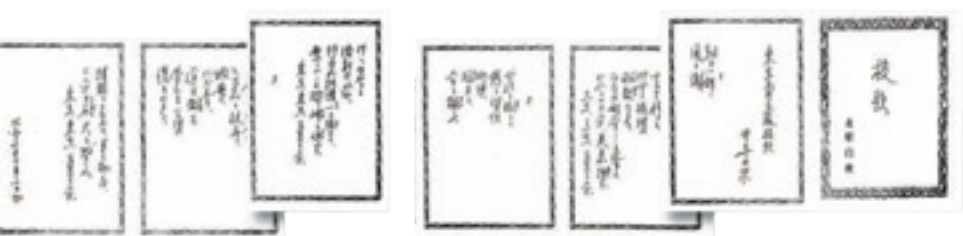
教職員へのインタビューと今までの発行物、50年史編纂委員会の収集資料、その他参考資料をもとに、『芝浦工業大学60年の軌跡』がシステム工学部記念出版として1991年に発行されました。



『60年の軌跡』

70周年（1997年）

70周年記念事業として、「人間主義の工学・工学ルネッサンス」をテーマに1993年から2000年までさまざまな事業を実施しました。その一部を下記で振り返ります。



1994年4月 北原白秋自筆による「校歌原稿」複製制作



70周年事業ポスター

1994年5月
『有元史郎伝記』の復刻



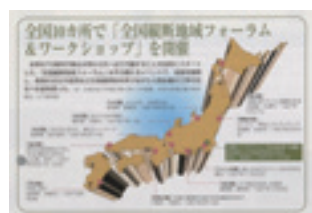
1995年5月 葉山セミナーハウス開設。
施設名称を「葉山マリンSIT」に決定



1994年12月「ニュートンのリンゴの木」
植樹祭実施



『創立70周年記念史』および
『創立70周年記念事業記録集』を発行



1997年 全国10か所で「全国縦断地域
フォーラム&ワークショップ」を開催



1997年 全国縦断ロボットセミナー
(全国11か所)



1998年4月 猪苗代合宿教育センター
設置（中学・高等学校）



1998年5月 先端工学研究機構棟設置



1997年11月 創立記念式典（帝国ホテル孔雀の間）



1999年4月 柏中学校設置



1998年10月 会津高原高校セミナーハウス
竣工

参考文献：学校法人芝浦工業大学（1977年）『50年のあゆみ』／学校法人芝浦工業大学（1987年）『60年のあゆみ』／学校法人芝浦工業大学（1997年）『70年のあゆみ』／芝浦工業大学柏高等学校（1989年）『十年の歩み』／学校法人芝浦工業大学広報課（1991年）『芝浦工業大学60年の軌跡』／学校法人芝浦工業大学創立70周年記念事業事務局（1998年）『学校法人芝浦工業大学創立70周年記念事業記録集』／学校法人芝浦工業大学広報課（2012年）『史料に見る芝浦工業大学』

”
デジタル技術と建築再生の両輪で
建築の価値を未来へとつなぎ
実際の地域、人との関わりの中で
建築をより豊かにする
“

ICT（情報通信技術）の進化にともない3Dスキャン、レーザーカッター、3Dプリンタなど、デジタルファブリケーションと呼ばれる建築にも関連するデジタル技術も発展した。水谷晃啓准教授が担当する建築デジタルデザイン研究室では、こうしたデジタル技術を新たな建築デザイン、および既存建築の再生に効果的に導入、活用していくための研究を行っている。

mic column

システム理工学部／
建築デジタルデザイン研究室

水谷 晃啓 准教授



PROFILE

博士（工学）、一級建築士。芝浦工業大学大学院博士後期課程修了後、隈研吾建築都市設計事務所を経て、豊橋技術科学大学助教、講師、准教授を歴任。2024年に芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科准教授に着任し、学部改組を経て、2026年より現職。建築デジタルデザイン、既存建築の再生、デジタルファブリケーションを専門とし、BIMやVR、3Dスキャンなどのデジタル技術を活用した建築・都市デザインの研究・教育・実践に取り組む。キッズデザイン賞、ウットデザイン賞、日本建築家協会（JIA）東海住宅建築賞などを受賞。産学官連携による地域プロジェクトも推進している。



丹下健三の研究を現代的な
技術を用いて社会に生かす

水谷晃啓准教授が建築に興味を持った一つのきっかけは、幼い頃に保育士だった母が定期購読してくれていた福音館書店の「たくさんのふしぎ」シリーズの1冊、『すてきにへんな家』（1988、タイガー立石・作）という絵本だった。

「私は5歳ぐらいの時にその絵本に出会って以来、飽きることなく繰り返し読んでいたそうで、今でも大切に手元に残しています。そこには、例えばメタボリズム建築といった大学で学ぶようなものも載っていましたが、自由な発想で描かれた建築や空間に、子どもながらに強く惹かれていたのかもしれない。また、父が建築関係の仕事をしていたため、家の中に仕事道具や専門書がたくさんありました。振り返ると、私にとって建築は特別なものではなく日常の延長にあるもので、それが現在に至る私の研究者、実務家としてのあり方に影響しているように思います」

現在、水谷准教授はデジタル技術を活用した建築研究に従事しているが、その原点は、芝浦工業大学大学院で丹下健三（1913・2005）の研究に触れたことにある。丹下といえば国立代々木競技場をはじめとする世界的な建築物を設計した建築家として知られるが、1960年代には大学でコンピュータを都市計画やアーバンデザインに用いる研究にも取り組んでいた。

「2007年から09年にかけて、私は丹下研究室の最後の卒業生だった八束はじめ教授（当時）の研究室に所属して

SIT A c a d e

撮影：長谷川健太



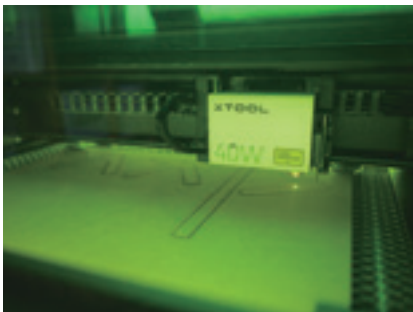
いました。そこで当時の論文や資料を読んでいく中で、丹下の発想には現在のデータサイエンスやAI、シミュレーションにも通じる先見性があることに大きな衝撃を受け、『この研究は、もっと現代的な技術で発展させ、社会に生かすべきではないか』と強く感じたのです」

デジタル技術と建築再生は 建築の価値を未来へつなぐ手段

水谷准教授は、大きく分けて二つのテーマに取り組んでいる。一つは、3DCADやVR、AIなどのデジタル技術を活用した建築デザインの研究だ。建築やまちづくりのプロセスをより分かりやすく、多くの人が参加できるものを目指すことを目指すとともに、レーザーカッターやCNCなどのデジタル加工機を活用し、専門家だけでなく誰もがものづくりに参加できる、DIYに近い新しい建築生産のあり方を模索している。

「2010年頃から、私は建築の中にコンピュータシミュレーションをどうやって取り入れるかを考え始めました。当時はAIが台頭する前だったのですが、ある条件をコンピュータに入力すると、なんらかの答えが返ってくる。それを繰り返し行う、いわばコンピュータとの対話に可能性を感じました。そのようにコンピュータと対話しながらアイデアを練っていた時期に、日本でもファブラボという、3Dプリンタやレーザーカッターなどを提供する小規模な工房が展開され始めました。要は、誰もがデジタルファブ리케이션によるものづくりができる環

mic Column



境が整備されつつあった。自分のアイデアを形にする際、かつては図面を引き、職人に依頼し、試作品ができるまでに数日かかっていたのが、デジタルファブ리케이션によってそのプロセスをぎゅっと短縮できる。これをラピッドプロトタイプングと言いますが、コンピュータシミュレーションとデジタルファブ리케이션が組み合わ

ることで、自分の進む道が定まってきました」

もう一つのテーマは、既存建築の再生だ。建物を壊して建て替えるのではなく、その建築が持つ歴史や地域性、時間の積み重ねを読み解き、新しい価値へと更新する設計にも取り組んでいる。

「デジタル技術と建築再生は、一見すると異なるテーマに見えるかもしれませんが。しかし、私の中ではどちらも『建築の価値を未来へつなぐための手段』です。新しい技術を使うこと自体が目的ではなく、建築や地域の魅力をより豊かに引き出し、次の世代へ受け継いでいくことを目指しています」

フィールドワークで得られた 問いを起点に研究に取り組む

デジタル技術と建築再生の両輪で研究を進めるにあたり、水谷准教授が大切にしているのは、フィールドワークを通して「現場から考えること」。すなわち地域に出て、現場で見出した課題を研究テーマとして発展させていくことだ。

「建築は、実際の場所や人との関わりの中で、地域や社会が抱える課題に向き合い、その解決を目指す建設的な営みだと私は考えています。ゆえに机上で完結するのではなく、設計やもの

づくり、地域との協働といった実践を通して得られた問いを起点に、研究プロジェクトに取り組むことを意識しています。また、ここで用いるデジタル技術も、あくまで人や地域のありよう、建築の価値を分かりやすく伝え、よりよい意思決定につなげるための手段です。技術そのものを追い求めるのではなく、

「建築をより豊かに

SIT A c a d e

すること”が、常に研究の軸になっています」

今後も、水谷准教授はデジタル技術と現場での建築実践をより密接に結び付けた研究を推し進めていく方針だ。デジタルファブリケーションに加え、A-VRなども活用しながら、新たな建築

の設計だけでなく、既存建築および地域の再生といった、社会が抱える課題に対して実践的な提案ができる研究室を目指している。また、研究成果を論文だけで終わらせるのではなく、実際に建築や地域で形にし、社会へ還元していくことも重視している。その上で、学生に対しては、建築に軸足を置きつつ他分野へも目を向けることを促している。

「建築は、人や社会、技術、文化など幅広い分野とつながっています。だからこそ、専門知識を身につけるだけでなく、自分の興味を大切にしながらさまざまな分野に積極的に関わってほしい。芝浦工業大学には、実践的な学びや多様な人との出会いが数多くあります。その環境を生かし、自分の強みを見つけ、絶えず挑戦を続けてください。大切なのは、誰かが何かをしてくれるのを待つのではなく、自ら考え、行動することです。その積み重ねが、自分自身の人生を主体的に切り拓く力を育み、建築や社会に新しい価値を生み出すことに通じると信じています」





卒業生の今

しばうら人

創立以来10万人を超える
芝浦工業大学の卒業生。
現在も日本はもとより
世界各地で活躍しています。
エンジニアはもちろん、
さまざまな方面で活躍する
卒業生を紹介します。

2025年11月より活動
を開始した「Primo」。
主催する卒業生2人
に、デザインとの出会
いと、進路の悩みに寄
り添う思いを伺った。



PROFILE

平野 颯也さん

Soya Hirano

株式会社リクルート

勤務

デザイン工学部 デザイン工学科
2025年3月卒業



PROFILE

砂子 咲季さん

Saki Sunako

株式会社日立製作所

勤務

デザイン工学部 デザイン工学科
2025年3月卒業

SHIBAURA-JIN

学生と卒業生の交流イベント「Primo」で デザイン工学部の進路の選択肢を拡げたい



インタフェ 表彰

大学での幅広い学び
心躍るデザインとの出会い

—— 大学時代、お二人はどのような学
びに力を入れていらっしゃいましたか？

砂子 私は当初、形あるものづくりを
中心に学んでいました。やがて情報系
デザインに触れる中で、自分はモノに
落とし込むよりも体験を考えることが
好きなのだと気づきました。以降、U
ー・UXを本格的に学び、そこで平野
くんとも面識を得ました。3年次に「イ
ンタフェ」という授業外の自主学習
ワークショップで3か月かけて作品を
創り上げた時も同じチームで、このと
きの経験はデザイナーとしての私の原
体験になっています。

平野 私はもとよりUー・UXを専

攻しており、さまざまな実践型授業
やワークショップの中でUー・UX
の奥深さを学んでいきました。中で
もグローバルPBLには7〜8回参
加し、課題認識が多様な人々とのコ
ミュニケーションを経て一つの解決
策を形にするデザインの難しさ楽し
さを肌で学びました。

砂子 特に印象に残っている授業は、
3年次の「プロジェクト演習」です。
先生方が出されるお題にデザインを
提案する授業で、アウトドア企業と
のコラボでは実際にキャンプ体験を
行いました。実際の体験を観察し、
記録して分析するというプロセスを
通して、「想像力を駆使して使う人
の目的や体験を考える」大切さを知
りました。ここでデザインの仕事の
プロセスに面白さを感じ、本格的に
就活に向かうことができました。

平野 大学では「見える化することの
価値」を多く学びました。例えば、グ
ローバルPBLでは国籍・文化・言語
が異なるメンバーが集まるため、各自
が考える課題感も異なります。ユー
ザー自身が言葉で表現できない課題
をどのようなデザインアウトプットな
ら解決できるかを探る中で、デザイン



グローバルPBL



卒業研究 店舗インタビュー

の持つ価値を強く感じました。2年次の「コンテンツデザイン演習」で広義のデザインに向き合い、「人はいつ、どのように、何を求めてそのデザインにたどり着くのか」考えたことも、デザインの価値を確認する機会になりました。

——現在のお仕事の内容を教えてくださいませんか？

砂子 株式会社日立製作所で社会インフラシステムのデザインに携わっています。鉄道、工場、電力システムなどの社会インフラを、「どのように変化させれば社会がよりよいものになっていくか」「新しい技術を、どのように人に使ってもらうのか」「使う人がどんな体験をし、どう感じるのか」

構想から考えていくことは、大学での学びとつながっていると感じます。

平野 私は株式会社リクルートでデザインディレクターを務めています。プロジェクトごとに課題を可視化し、不確実性の高い課題にも踏み込んでサービスの新機能や改善点を考え、デザイン視点で最適なアウトプットを探るのが私の仕事です。プロジェクトマネージャーやマーケターなどの方々とチームで仕事を進めるのですが、最初は誰の目にも方向性が見えていません。そこを可視化することがデザイナーの仕事でもあります。

学生と卒業生の架け橋になりたい

——お二人が企画・運営されているPrimoは、在学生と卒業生の交流イベントとして、2025年11月に活動を開始しました。Primo立ち上げの経緯を教えてくださいませんか？

平野 そもそも発想は、私が梁元碩教授からお誘いを受け、2025年11月に学部生向け授業「コンテンツ

デザイン」で90分間の講義をさせていただいたことに始まります。これをきっかけに「継続的に学生をサポートしたい」という強い思いが生まれ、砂子さんを誘ってPrimoを立ち上げました。イベントの内容は働き方紹介、クロストーク、作品フィードバック会などで、これまでに3回開催しましたが、毎回満席の盛況で、学生も就活やデザインの仕事への不安が大きいのだと感じています。

砂子 私自身も学生時代、デザインの学びは広いからこそ仕事にどうつながっていくのか、自分は何者になれるのかが見えないことが悩みでもありました。Primoのイベントで卒業生のリアルな仕事を知っていただくことで、学生の皆さんにも将来のビジョンが見えてくるのでは？と期待しています。

平野 学生からは「就活に役立つ」「外部イベントでは聞きづらい質問



Primo 対面イベント

もできる」「社会人にポートフォリオを見てもらえる」などのフィードバックをいただいています。今後も年2〜3回開催し、学生と卒業生がつながる場所をつくり、架け橋になりたいです。イベント開催時にオンラインラボなどの場所を提供し、広報もしてくださる大学には心から感謝しています。

——高校生や在学生の皆さんにメッセージをお願いします。

砂子 デザイン工学部で学んだことはどのような仕事に就いても必ず役に立ちます。芝浦工大にはいろいろなことに挑戦させてくれる機会が多くありますので、ぜひこの環境を利用してください。

平野 芝浦工大は最高の大学だと私は心から思っています。素晴らしい先生や仲間に出会い、恵まれた環境を存分に使って学生時代を楽しんでください！



Primo 対面イベント②

ACTIVE STUDENTS!

活躍する芝浦工大の学生たち

合理的配慮が求められる今、商店街の「使いやすさ」を見つめ直す

車いす利用者や高齢者にとって、

歴史ある商店街での合理的配慮

人と空間の関係性が支えるアクセシビリティ

大学院理工学研究科 修士課程
建築学専攻 2年

福島 水柚さん

買い物の「動き」から、
使いやすさを設計する



3日間・21店舗を調査。
「買い物の行動」から課題と
可能性を読み解く

福島さんが調査対象としたのは、東京都墨田区京島の下町人情キラキラ橘商店街。3日間で21店舗を回り、来店動線や段差、通路幅、レジの高さ、店員の声掛けなどを丁寧に記録しました。その中でも特に負担が大きかったのは「商品を選ぶ」場面。陳

列やポップの位置が高いと商品を見つげにくく、手に取れても元に戻しづらい。冷凍ケースの開閉やセルフレジの操作も負担になっていたといいます。

「ハード＋ソフト」が支える
アクセシビリティ
― 対面販売の強み

一方で、店舗側の工夫にも多くの気づきがありました。対面販売の店舗では店員が商品を取って見せながら説明し、会計や荷物をしまうまで自然にサポート。「大丈夫ですか?」「後ろのバッグに入れておきますね」といった何気ない声掛けや、低い位置に置かれた見やすいポップが安心につながっていました。店内が見えにくい店舗では入店をためらう一方、間口が広い店舗では声を掛けてもらいやすい。「頼みやすさは人との関わりだけでなく、店舗の間口や見通し、商品の配置、手すりにも左右されると感じました」と福島さんはいいいます。

受賞を経て次のテーマへ、
路上購買の接触リスクにも
着目

印象的だったのは、「段差ゆえに車いす利用者が来店しない店」がある一方で、「常連に合わせて対応する店」もあったこと。「空間づくりによって利用者との接点が生まれ、それが安心感にもつながる。アクセシビリティは設備だけでなく、人と空間が関わり合うことで実現すると考えています」。福島さんはこの成果を「商店街×学生ドリームプランシンポジウム」で発表し、東京商工会議所墨田支部賞を受賞しました。今後は路上での購買に伴う歩行者や自転車との接触リスクにも注目し、什器配置やサポート体制、商店街周辺を含めた街路空間のあり方を提案していく考えです。「誰にとっても安心して利用できる環境を、現実的な形で増やしていきたいです」



自動車部

感覚を言語化

工学部機械工学課程 基幹機械コース 3年

神永 颯太さん

理系の視点× チーム力で掴みとった2連覇



舗装された広場に置かれたパイロンを回避しながら走行タイムを競う競技、ジムカーナ。芝浦工業大学自動車部は5月に行われた全関東学生ジムカーナ選手権大会で見事団体2連覇を果たしました。

Q 全関東大会2連覇、率直な感想はいかがですか？

非常に大きな達成感があります。特に今年は、長年使用してきた競技車両「インテグラ」が規定変更により最後の学連戦となる特別な年でした。これまでの集大成として、チーム全員で勝ち取った優勝には深い思入れがあります。

Q 連覇の裏には相当な努力があったと思います。大変だったことはありませんか？

大会直前のトラブルには本当に悩まされました。車両が30年前に製造された車ということもあり、走るたびにどこかが壊れ、走っては直しの繰り返しでした。特に大会本番当日、1本目の走行後にタイヤを固定する部品が破損するとい

う絶体絶命の事態が起きました。しかし、車両長や副車両長を中心にチーム一丸となって懸命に修理してくれたおかげで、午後の出走ギリギリで間に合わせることができました。この時、チームの団結力の素晴らしさを強く感じました。

Q チーム力を高めるため、主将として工夫していることはありますか？

部員が増えたことで、目標意識にバラつきが出やすいのが課題でした。競技で勝ちたい人もいれば純粋に車が好きな人もいます。私は、一人ひとりと対話してそれぞれの価値観を理解することを大切にしています。部活として厳しく縛るのではなく、緩める時は緩め、やる時はやるというメリハリを重視しています。また、自分たちが勝つ姿を見せることで、後輩たちがこの部に入っ

Q チーム力の他に2連覇の秘訣はありますか？

「全員が理系学生」というのは他の大学にない強みだと思います。

授業で学んだことがそのまま整備に生かせることが多くあります。例えば、材料力学で学んだ強度計算の知識が、車両を壊さないための考え方につながります。

また、さまざまな学科の学生がおり、物質化学課程の学生はオイルの成分に詳しいなどそれぞれの分野の知識を持ち寄りながら整備を行います。

さらに、「感覚を言語化できること」も強みの一つです。変な音が出ているといった抽象的な報告ではなく、具体的にどここの様子がかしいのかを論理的に分析して伝えることができるといった論理的に物事を考える力は弊部ならではの強みです。

Q 今後の目標についてお聞かせください。

長年共に戦ってきたインテグラでの晴れ舞台も、次の全日本大会が最後になります。支えてくださった方々への感謝を胸に、有終の美を飾れるよう、部員一丸となって尽力していきます。ご声援よろしく願います。

芝浦工業大学

タイ王国政府派遣奨学金プログラム「ODOS Summer Camp 2026」 芝浦工業大学が日本で受け入れる唯一の大学に

4月13日から5月15日までの5週間、タイ王国政府派遣奨学金プログラム「ODOS(One District One Scholarship) Summer Camp 2026」の奨学生を受け入れました。本プログラムは、タイ王国の将来を担う高校生などを対象とした理工系人材育成事業であり、本学は日本で唯一の受け入れ大学として参画しました。

期間中、複数の研究室へのローテーション配属を通じてラボワーク体験や英語開講授業の聴講といった本学の先進的な工学教育・研究環境を活用

したプログラムや日本文化を体験できるプログラムなどを実施しました。

4月14日には熱海セミナーハウスで開会式・オリエンテーションが行われ在タイ王国日本大使館一等書記官 谷村隆昌氏、タイ政府デジタル経済推進庁・ODOS 日本国責任者 Dr. Kitti Koonsanit 氏、本学副学長・工学部長 荻谷義治が挨拶を行ったほか、本プログラムの説明や「デザイン＆テクノロジー」に関する特別講演が行われました。

プログラム最終日には、タイ政府機関関係者や

本学関係者が参加する中、学習の成果報告会および修了式を執り行いました。成果報告会では、参加学生より「大学の研究室で専門的な活動を行う貴重な体験ができた」「工学分野への興味・関心が高まった」や「プログラムを通じて時間厳守の文化や規則正しき、剣道や茶道を通じて、日本の礼儀作法に触れることができた」といった声が寄せられました。



オリエンテーションの様子



日本文化体験(剣道・茶道の様子)



成果報告の様子



修了式の集合写真

レース後の
監督コメントはこちら



駅伝部特設サイトは
こちら



駅伝部が「全日本大学駅伝関東地区選考会」に3年ぶりに出場しました

5月4日、「秩父宮賜杯第58回全日本大学駅伝対校選手権大会関東学生陸上競技連盟推薦校選考会」がレモンガススタジアム平塚で開催され、駅伝部が3年ぶり(2回目)に出場しました。結果は過去最高の総合14位となり、強風吹き荒れる厳しいレースの中、8人全員が最後まで粘り強い走りを見せました。箱根駅伝常連の強豪校がひしめく中で、着実にチームとしての成長を見せることができました。

チームとして戦う次戦はいよいよ箱根駅伝予選会です。応援よろしくお願いします！

個人記録

種目	組	着順	氏名(学年)	タイム
10000m	1組	21着	大関 星斗(1)	30'46" 90
10000m	1組	29着	森尻 悠翔(2)	31'13" 83
10000m	2組	25着	田中 敬(1)	30'29" 83
10000m	2組	29着	小林 圭吾(3)	30'44" 04
10000m	3組	18着	丹野 暁翔(4)	30'02" 23
10000m	3組	24着	植田 航生(4)	30'15" 34
10000m	4組	36着	岩瀬 駿介(2)	30'02" 31
10000m	4組	39着	後藤 秀波(2)	30'43" 93

チーム記録

総合順位

14位

タイム

4時間4分18秒41

全日本大学駅伝対校選手権大会
関東学生陸上競技連盟
推薦校選考会とは

全日本大学駅伝は、箱根駅伝、出雲駅伝とともに「学生三大駅伝」と呼ばれています。本選考会では出場校20校で1校2人ずつ、4組で10000mのレースを行い、8人の合計タイムの上位7校が関東地区の代表校となり全日本大学駅伝本大会への出場権を得ます。大学陸上長距離種目では、箱根駅伝を開催する関東学生陸上競技連盟に強豪校のほとんどが加盟しており、関東地区選考会は全国で最もハイレベルな選考会です。全日本大学駅伝への関東地区からの出場はシード校を含めて15校のため、本選出場の難易度は箱根駅伝よりも高いといえます。

芝浦工業大学

第30回 大宮祭に2年連続過去最多の来場者

5月17日、大宮キャンパスで第30回大宮祭が開催されました。大宮祭は「地域との交流」をコンセプトにした学園祭です。今年のテーマは「SPARK」。火花のように弾ける学生のアイデアが、連鎖するように盛り上がりを生み出したという意味が込められています。当日は昨年更新された来場者数をさらに上回る、過去最高の6228人(のべ数)が来場しました。地域に開かれたキャンパス整備を進める大学と実行委員会の思いが重なり、小さな子ども連れのご家族や小・中学生、高齢の方まで年齢・性別を問わずたくさんの方が楽しめるイベントとなりました。



大宮キャンパスでは、創立100周年に向けたキャンパス再整備計画「O-CAMP 2027」が進められています。芝生広場や創発棟に続き、カフェテリア棟の新設や地域の方も利用できる施設の拡充など、今後も地域に開かれたキャンパス整備を進める計画です。今後の大宮キャンパス、そして大宮祭のさらなる盛り上がりが期待されます。



女子校との連携をさらに拡大

芝浦工業大学では、女子生徒の理工系分野への関心を高め、進路選択の可能性を広げることを目的に、女子中学・高等学校との教育連携を推進しています。

これまでに3校と教育連携協定を締結してきましたが、この度新たに13校と協定を締結し、協定校は16校となりました。これにより、首都圏を中心とした女子中学・高等学校との連携ネットワークを大幅に拡充しています。

協定校とは、大学教員による出張講義や研究室見学、在学生との交流企画などを実施し、理工系分野の学びや研究の魅力を伝えてい

ます。特に、本学の女子学生や大学院生との交流は、理工系を学ぶ身近なロールモデルとの出会いの場となっており、生徒たちが大学での学びや将来のキャリアを具体的に考えるきっかけとなっています。

今後も女子中学・高等学校との連携をさらに深め、理工系分野で活躍する女性人材の育成に取り組んでいきます。



女子校との教育連携協定締結校

2022年度
昭和女子大学附属昭和高等学校
山脇学園高等学校
2023年度
実践女子学園中学校高等学校
2025～2026年度
鎌倉女学院中学校高等学校
カリタス女子中学高等学校
国府台女子学院高等部
大妻中学高等学校
共立女子中学高等学校
江戸川女子中学校・高等学校
品川女子学院高等部
大妻中野中学校・高等学校
恵泉女学園中学・高等学校
見華学園中学校高等学校
光塩女子学院中等科・高等科
普連土学園中学校・高等学校
淑徳与野中学・高等学校

計16校

建築学専攻の大学院生が、サンゴバン国際学生建築コンテストで2・3位に入賞

建築学専攻の大学院生が、4月25日に行われた「サンゴバン国際学生建築コンテスト」日本大会（主催 サンゴバングループ（東京都千代田区））で、2・3位に入賞しました。2004年に始まった国際学生建築コンテストは、2026年で第21回を迎えます。2025年は33カ国・211大学から1360人が参加。2026年はセルビア・ベオグラードを舞台に、持続可能な建築デザインの提案を募集しました。

■2位 作品名『Belgrade25』

内田竜太朗さん、柳瀬奏人さん、孫道衡さん

審査員含めさまざまな方から高い評価を受け、とてもうれしく思います。今回は2位という結果に終わってしまいましたが、この悔しさを糧



にさらに精進していきたいと思えます。

■3位 作品名『MANY FACE OF...』

本田伊吹さん、吉野暁雄さん、日名泰聖さん、古島光さん

環境システム学科の4年間で学んだことの集大成として本コンペに取り組みました。環境システム学科ならではの分野横断を生かし、建築形態と環境配慮を行き来して設計を進めました。公開審査でのフィードバックでは、より実務的で大人な提案である一方でインパクトが足りないとのこと指摘いただきました。受賞を誇りに思うと同時に、ご指導いただいた先生方や先輩方に感謝し、今後の研究活動に生かしてまいります。



芝浦工業大学附属中学高等学校

インド名門校とのホームステイ交流プログラムを実施しました

附属中学高等学校（以下、附属中高）ではグローバル教育に注力し、生徒が在学中に海外で学び・交流する機会を創出しています。今回は海外の生徒を受け入れて交流する取り組みとして、インドの名門私立学校「Lotus Valley International School」（以下、ロータスバレー校）との相互交流を実施しました。

3月26日から4月2日には「インド最先端プログラム」として附属中高の生徒30人がインドを訪問し、ロータスバレー校の生徒宅にホームステイしながら学校交流を行いました。歓迎会・体験授業・遠足に加え、世界遺産の見学、日系企業やインド工科大学訪問などを通じて、多面的な学びを深めました。

5月27日から6月2日には、ロータスバレー校の生徒が訪日し、附属中高の生徒がホストファミリーとして受け入れました。授業参加や都内観光、熱海セミナーハウスでのメッ

セージ交換、パフォーマンス披露などを通じて交流を深めました。ホストファミリーを務めた生徒からは「食生活や時間感覚など文化の違いに驚いた」「ダンスや歌に圧倒された」などの声が寄せられました。また、担当教諭は「生徒が異なる文化や価値観に触れながら交流できたことは視野を大きく広げる機会になりました。今後は春

休みのインド最先端プログラムだけでなく、個人的にはインドへの短期留学などの取り組みもしていきたい」と今後の展望を語りました。



INPIRTによる知財セミナーを実施しました

附属中高では、「世界で活躍し、世界を変える理工系人材の育成」という教育理念のもと、中高一貫生を対象に「工学探究」の授業を実施しています。同授業では、理工系の知識を活用して社会課題の解決に取り組み、2年間かけて一つのプロジェクトを遂行します。

6月29日、高校1年の一貫生158人を対象に、独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIRT）による知財セミナーを実施しました。生徒がそれぞれの探究テーマを考え始める時期に、「新しい価値を創出する」上で重要な新規性や知的財産権について理解を深めることを目的としたものです。当日はINPIRTから2人の講師を招いて、知的財産権の基本やルール、身近なテクノロ

また、特許情報プラットフォーム「J-Platform」を使い、企業が保有する特許・意匠・商標などを検索する体験も行いました。

参加した生徒からは、「自分が探究で開発しようとしていることに本当に独自性があるのか調べるきっかけになった」「既存の技術を調べること

で、自分の探究に生かせるのではないか」といった声が寄せられました。授業を担当した金森教諭は、「特許の専門家をお招きした今回のセミナーは、生徒にも教員にも非常に刺激的な学びの機会となりました。今後は高大接続をさらに加速・強固なものとし、より高度な探究活動へと発展させていきたい」と今後の展望を語りました。



芝浦工業大学柏中学高等学校

ノーベル物理学賞受賞者 梶田隆章先生による特別講演が行われました

5月27日、2015年ノーベル物理学賞受賞者であり、ニュートリノ振動の発見で知られる梶田隆章先生による特別講演を開催しました。講演には、グローバルサイエンスクラスの高校1・2年生に加え、「さくらサイエンスハイスクールプログラム」※で来校した海外の高校生74人が参加し、講演と質疑応答はすべて英語で行われました。

講演では、ニュートリノ振動研究から重力波観測に至るまで、最先端の物理学研究について紹介がありました。また、梶田先生自身が研究者を志し、長年にわたり探究を続けてきた歩みにも触れ、「結果を得るには長い時間と忍耐が必要」「夢を持ち続けてください」と、生徒たちへ力強いメッセージが贈られました。会場では、貴重な機会に次々と手が挙がり、活発な質疑応答が行われるなど、生徒たちの高い関心が伺えました。



※さくらサイエンス・ハイスクールプログラム：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）主催。海外の高校生を日本に招き、日本の科学技術への関心を高める交流プログラム。

講演に先立ち、生徒たちは海外の高校生と一日バディとして交流し、英語でのコミュニケーションを通じて親睦を深めました。書道や茶道の観点前などの日本文化を共に体験したほか、校内ツアーでは日本の学校生活も紹介。短い時間ながら温かな交流が生まれ、別れを惜しむ姿も見られました。本講演と国際交流を通して、生徒たちは世界最先端の科学に触れるとともに、多様な価値観に出会い、学びへの視野を広げる貴重な機会となりました。

カフェテリアがリニューアルオープンしました

老朽化していたカフェテリアの改修工事が完了し、新たな学びと交流の場としてリニューアルオープンしました。

今回の改修では、「学校の中に

サードプレイス」という生徒会の提案も参考にしながら、従来の座席数を可能な限り維持しつつ、落ち着いたカフェ空間をイメージした整備を行いました。温かみのある木目調の家具と落ち着いたグリーンを基調とした

内装を採用し、植栽

付きのビッグテーブルをはじめ、集中して自習ができる1人席や、友人と一緒に食事や勉強ができるBOX席など、多様な利用形態に対応した計216席を



設けています。

また、食券の購入から食事の受け取りまでの動線を見直し、混雑時でもスムーズに利用できるよう改善しました。

食事の場としてだけでなく、放課後の「ノマド学習」や気分転換の場としての活用も見込まれており、生徒たちが和やかに、そして集中して過ごせる新たな学びの拠点となることが期待されます。

校友会支部紹介

Vol.01

埼玉支部(設立2004年12月11日)

初代支部長 泉澤定雄 先輩
二代目支部長 吉池富士夫 先輩

校友会埼玉支部は、20代から90代までの幅広い世代の校友が集まり和気あいあいと活動しています!大宮キャンパスを本拠地とし、埼玉在住をはじめ、在勤や関係者などからご参加いただく方が多く、和敬協力のもとフレンドリーな雰囲気支部です!毎年、酒蔵巡りなどの楽しい日帰り旅行を企画しています!

三代目支部長 佐藤 勝さん



現学生と一緒に作る総会・懇親会



楽しい懇親会

お問い合わせ

芝浦工業大学校友会埼玉支部
E-mail:sit.saitamashibu@gmail.com



公式LINE
はこちら



会員登録
はこちら

皆様のご参加
お待ちしております!



芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927
Tokyo



100周年記念事業
ご寄付のお願い



X
芝浦工業大学
公式アカウント



Instagram
芝浦工業大学
公式アカウント



YouTube
芝浦工業大学
公式アカウント



TikTok
芝浦工業大学
公式アカウント